

# 中学校、高等学校の国際理解教育

……英語教科書による調査・研究……

梅 染 信 夫

## Ⅰ. 調査・研究の趣旨

本学においては、英語科1年の学生全員に対して「異文化間コミュニケーション論Ⅰ」(2単位)の講義が行われ、また、同じく2年国際コミュニケーション・コースの学生に対して「異文化間コミュニケーション論Ⅱ」(2単位)の講義が行われる。筆者はその担当者の一人として、学生が本学に入学する以前に中学校及び高等学校においてこの講義の内容に該当する学習経験があったかどうか、また、あったとすればそれはどのようなものであったかについて調査する必要を感じた。

現行の「中学校学習指導要領」及び「高等学校学習指導要領」(平成元年改訂)における「異文化間コミュニケーション教育」に当たるものは「国際理解教育」である。

中学校の「国際理解教育」について、多田(1993)は、その該当する教科としての国語、社会、理科、数学、音楽芸術、保健体育、英語の具体例を掲げており、また、高等学校の「国際理解教育」について、米田(1993)は、「国際理解教育の基本は教科にこそあり、それも全教科で実践されることが望ましいが、どちらかといえば英語、社会、国語に集中している」として、それらの教科における国際理解教育の推進を勧めている。

文部省は1993年に教育白書『我が国の文教施策：文化発信社会に向けて』を発行したが、ここにおいて、現在の世界情勢の分析、我が国を取り巻く国際環境の厳しさについて触れたのち、そのような状況の中で各国が協調し発展していくためには、お互いの歴史、文化、習慣、価値観などを理解し合うこと、また、我が国がその地位にふさわしい国際貢献をなすべきであると、その重点施策の第一に「国際理解教育の推進と外国語教育の充実」を挙げている。以上、我が国における国際理解教育が、中学校及び高等学校の外国語教育なかんずく英語の学習指導の中で行われることが想定されている点を指摘した。

以下に、Ⅱ.「国際理解教育」と「異文化間コミュニケーション教育」、Ⅲ. コミュニケーション能力の4要素、Ⅳ.「国際理解教育」の指導事項、Ⅴ. 中学校英語教科書における指導事項、Ⅵ. 高等学校英語教科書における指導事項、Ⅶ.「国際理解教育」の指導と評価(結語)の順に述べ、もって中学校、高等学校における「国際理解教育」及び大学・短大レベルにおける「異文化間コミュニケーション」の教育と研究に資するものである。

## II. 「国際理解教育」と「異文化間コミュニケーション教育」

ここでは、中学校、高等学校の「国際理解教育」と本学などの「異文化間コミュニケーション教育」の目的の上での関連性について述べる。

高等学校の学習指導要領は次のように述べている。

「外国語科の目標」……「外国語を理解し、外国語で表現する能力を養い、外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、言語や文化に対する関心を高め、国際理解を深める。」

「各科目にわたる内容の取扱い」……「教材は、その外国語を日常使用している人々を中心とする世界の人々及び日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史などに関するものの中から、生徒の心身の発達段階及びその興味や関心に即して適切な題材を変化をもたせて取り上げるものとする。その際には、外国語の理解力と表現力を育成することをねらいとしながら、次のような観点に留意する必要がある。

ア. 広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際強調の精神を養うのに役立つこと。

イ. 言語や文化に対する関心を高め、これらを尊重する態度を育てるとともに、豊かな心情を養うのに役立つこと。

ウ. 世界や我が国の生活や文化についての理解を深め、国際的な視野を広げ、公正な判断力を養うのに役立つこと。」(中学校の指導要領はこれと酷似しているので省略した。)

この指導要領は、文部省が指導要領を発表する2年前に出された教育課程審議会の答申(1987)に基づいていることは言うまでもない。その改善の基本方針の冒頭にはこのようにあった。

「中学校及び高等学校を通じて、国際化の進展に対応し、国際社会の中に生きるために必要な資質を養うという観点から、特にコミュニケーション能力の育成や国際理解の基礎を培うことを重視する。」

このように指導要領においても、また答申においても、「国際理解」という語が用いられているが、そのいずれにおいてもその定義はなされていない。しかし、文部省がこの語を用いるに当たって、日本ユネスコ国内委員会が1982年に発行した『国際理解教育の手引き』の中で用いた「国際理解」の定義を参考にしたのは当然のことと考えられる。そこには次のように述べられていた。

「国際理解とは文化の相互理解 Intercultural Understanding (異なった文化と文化の間の相互理解) だといえる。そして、他国・他民族・他文化の理解では、世界文化の多様性、価値観の多様性を受容する相互尊重と、寛容な態度および共感的な理解ということが重要となるであろう。」

一方、「異文化間コミュニケーション」という用語についてであるが、これは最近ようやく一般になじまれて来たように思う。そして、その定義については例えば Samovar, Porter, Jain

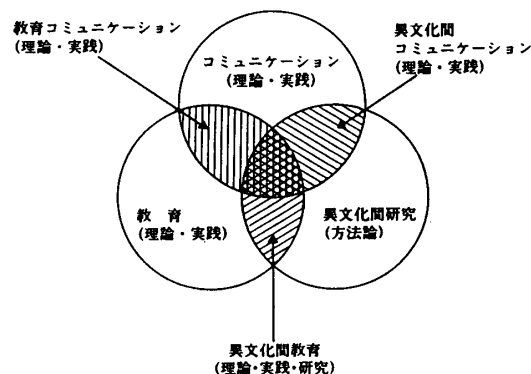
(1981) や Rich & Ogawa (1982) や若松 (1994) などが同種の用語をいくつか挙げ、それぞれの特徴について述べており、また、「異文化間コミュニケーション教育」の重要性やその必要性について述べているものとしては例えば Damen (1987), Samovar & Porter (1994) など類書が多く、また「日本におけるコミュニケーションの研究と教育」については神田外語大学異文化コミュニケーション研究所の調査 (1990) があり、さらに星野 (1989) はその研究領域の「学際性」について述べていて参考になる。

しかし「異文化間コミュニケーション研究と教育」の目的についての的確に述べているのは石井 (1987) であろう。「従来の文化比較は、文化間の異質性を指摘および強調する段階で止まりがちであったが、異文化コミュニケーション研究の目的は、実際のコミュニケーション活動において文化間の相違点や共通点がコミュニケーションにあたえる影響や異質性を相互に理解および尊重する方法を見出だすことである。そして、この研究に基づいて、文化相対主義の態度を育成し、文化間の相互理解と相互尊重を目指したコミュニケーション活動を展開できる人材の養成が異文化コミュニケーション教育の目的である。」

以上、中学校、高等学校における「国際理解教育」と本学などの「異文化間コミュニケーション教育」の目的について見たが、前者は中学校、高等学校における外国語の学習指導における「国際理解教育」の目標について述べ、また後者は大学・短大レベルの「異文化間コミュニケーション研究と教育」の目的について述べたもので、レベルと観点は異なるものの、両者の間にはその目的の上で明らかに大きな関連性が認められる。

### Ⅲ. コミュニケーション能力の4要素

筆者は、本学英語科における講座「異文化間コミュニケーション論」の目標を、受講する学生にとっての重要性と必要性から、上記星野が掲げる図のような三つの円、すなわち「コミュニケーション」、「異文化間研究」、そして「教育」のそれぞれに置かれるウエイトないし順序性 (priority) から次のように設定する。すなわち「異文化間コミュニケーション論」の目標は「英語による外国人とのコミュニケーションのための異文化理解の教育」である。これは抽象化して言えば、「異文化間コミュニケーション能力の育成」となるし、敷衍して言えば、「英語

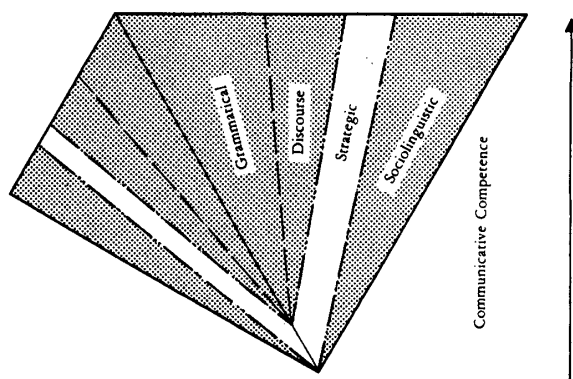


という外国語を学習・習得することによって、外国人とのコミュニケーション活動ができる人材、自文化と異文化を理解し尊重できる『文化相対主義』に立つ人材を養成する」となる。それではその「異文化間コミュニケーション能力の育成」という場合の「コミュニケーション能力」とはいかなるものか、このことについて以下に考察する。

Munby (1978) によれば、「コミュニケーション能力」(Communicative Competence) の概念構成には、言語学、社会記号論、社会言語学、心理言語学、社会哲学、談話分析などの分野から多くの学者の貢献があったことを記しているが、ここではそれ以降に発表されたものでコミュニケーション能力を四つの構成要素に分けて考える Canale and Swain (1980) 及び Canale (1983) の理論的枠組みによって考えることにする。この理論については、Savignon (1983) が詳細な分析を行っており、青木 (1992) や和田 (1994) もまたこれに言及しているものである。

Canale と Swain によれば、コミュニケーション能力には、①文法的能力 (Grammatical Competence)、②社会言語学的能力 (Sociolinguistic Competence)、③談話的能力 (Discourse Competence)、④方略的能力 (Strategic Competence) の4要素があり、そのうち、①の文法的能力とは語彙・語形成・文形成・発音・スペリング・語の意味などの規則や特質が理解でき、使用できるかどうかというものの、②の社会言語学的能力とは、質問・要求・提案というようなことばの機能、くだけた表現・形式ばった表現というようなことばの形式、また、ことばの丁寧さや自然さがその場面・状況に適切かどうかというものの、③の談話的能力とは、言語使用の結果産みだされた談話が文法規則によって構成されているか、また意味的に全体としてまとまりを持っているかどうかというものの、④の方略的能力とは、コミュニケーションが予想外の方角へ進み、思わぬ結果を招く恐れのある場合、言語及び非言語手段によって方向を修正し、初期のメッセージを伝達できるかどうかというものであるとする。

第2言語の「コミュニケーション能力の4要素」について考察した Savignon は、先ずこれらのコミュニケーション能力は部分の合計ではなく統合体であると考えた (下図参照)。彼女の案では逆ピラミッドの頂点が学習者の出発点を示し、コミュニケーション能力が増すにつれ



て四つの構成能力が増すことになる。つまり、外国語の文法的能力を習得する以前に既に社会言語学的能力や方略的能力の存在があり、それらが外国語のコミュニケーション能力を促進させるというもので、参考になる。

#### Ⅳ. 「国際理解教育」の指導事項

前章では Canale などの「コミュニケーション能力の 4 要素」について見たが、この研究が対象とする「国際理解」の能力はこれら①文法的能力、②社会言語学的能力、③談話的能力、④方略的能力の中のいずれに該当するのか。①の文法的能力とは文法規則や特質が理解でき、使用できるかどうかであり、また、③の談話的能力とは談話が文法規則に合致し、当該の言語による意味的まとまりがあるかどうかであった。

これら二つに共通する基準 (norm) は「言語の文法規則」であり、「国際理解」に直接関係があるとは考えられない。そうであれば、関係するのは②の社会言語学的能力と④の方略的能力であることになる。本研究のテーマは「中学校、高等学校における国際理解教育」であるが、これら「社会言語学的能力」と「方略的能力」の中の何が「中学校、高等学校における国際理解教育」の指導事項にあたるのか、このことについて考えてみたい。

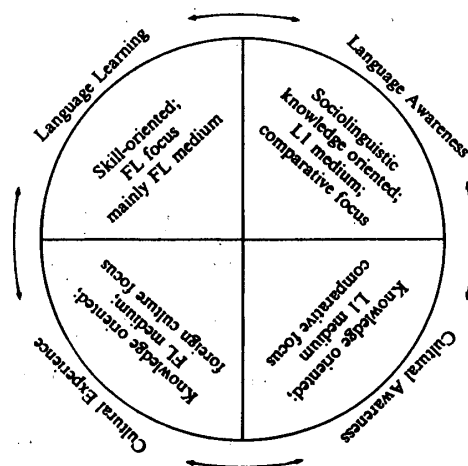
筆者は、この調査・研究に当たって、次の三つの指導事項を設定した。第 1 の指導事項は「知識としての異文化理解」であり、第 2 は「概念・機能の言語コミュニケーション」、第 3 は「知覚・行動の非言語コミュニケーション」である。

第 1 の「知識としての異文化理解」については、先ず、「コミュニケーション能力」としての「異文化理解」が知識 (knowledge) であるか技能 (skill) であるかが解明されなければならない。この点については Canale の所説を参考にした。

「コミュニケーション能力とは、知識と、実際の伝達の中で相互交流する際にこの知識を使用する技能との両方をさす。知識とは、(意識的であれ無意識的であれ) 言語や伝達のための言語使用に伴う他の諸相について、何を知っているかをさす。技能とは、伝達の中でこの知識をいかにうまく運用 (perform) するかをさす」(Canale, 1983)。

また、Byram and Esarte-Sarries (1991) も、次頁の図のように、外国語教育の要素が技能と知識の両方にかかわるとしている。すなわち、それらの要素とは、Language Learning (外国語による外国語技能の獲得)、Language Awareness (母国語による比較文化の社会言語学的知識の獲得)、Cultural Awareness (母国語による比較文化の知識の獲得) 及び Cultural Experience (外国語による異文化の知識の獲得) であるとする。

ユネスコの定義にあったように、中学校、高等学校における「国際理解」とは「外国の文化と自国文化の間の相互理解のこと」であり、そのことの教育は、「主として外国語の技能を育成する外国語教育」においてはなじまない。それは「主として異文化の知識を獲得させる外国語教育」において「世界文化の多様性、価値観の多様性を受容する相互尊重と、寛容な態度および共感的な理解が得られる」(ibid.) ものと筆者は考える。それが、ここでいう「知識としての



異文化理解」ということである。

第2の「概念・機能の言語コミュニケーション」の「概念」と「機能」という語は、1960年代の終り頃に提唱され、1970年代以降、英米を中心に行なわれるようになった Communicative Approach ないし Communicative Language Teaching において、D. A. Wilkins (1972, 76) などが、言語をコミュニケーションとして使用する場合の意味範疇を① notional (概念を中心とする) カテゴリーと、② communicative function (伝達機能) のカテゴリーとに分けた、その意味で用いるものである。彼らは、言語を伝統文法の usage (語法) の面からではなくコミュニケーションとしての use (言語使用) の面からとらえようとした。それは、伝統文法では communicative competence (伝達能力) の養成が難しいからである。

communicative competence の構成要素として社会言語学者の D. Hymes (1971) は、①形式上可能か (formal possibility)、②実行可能か (feasibility)、③場面・状況に適切か (appropriateness)、④実際に使用可能か (acceptability) を挙げているが、それらがここで言う「社会言語学的能力」に他ならない。

「社会言語学的能力は、言語が使用される社会的背景 (context) を必要とする。すなわち、言語の話者が持つ役割、彼等が伝達する情報の内容、そして彼等の相互作用が果たす機能のことである。」(Savignon, 1983)

中学校、高等学校の指導要領は、伝統文法に基づいて、音声、文、文型、文法事項などの言語材料を提示しているが、これは直接的には Brumfit などがいう「コミュニケーションのための文法的能力」及び Widdowson などがいう「コミュニケーションのための談話的能力」の育成を目指す、いわば “structural syllabus” である。しかし、Canale の「4要素」で見たように、communicative competence の観点からは、さらに Communicative Approach でいう “notional syllabus” を要するのであって、このことから教科書編集者は、いずれの教科書においても、その取扱いに軽重はあるものの、外国人とのコミュニケーションを成立させる特有の概念を表わす外国語、また、そのことのために特別に機能する外国語を学習させるための言語

材料を教科書に組み込んでいるのである。

第3は「知覚・行動の非言語コミュニケーション」である。

M. H. プロッサーは、「われわれはコミュニケーションをするかしないかという選択の余地はない。いったん他の人と相互関係をもてば、そこにはかならずコミュニケーションが生じる」と言ったが、これは真実を突いていると思う。なぜなら、「二人以上の人間が互いの存在を認識し合うということは、両者が、相互に作用し合うメッセージを、先行経験を通じて解釈し、意味を与えているということ」（鍋倉、1987）だからである。

このコミュニケーションは「言語行動」及び「非言語行動」によって成立するものであるが、それらによってコミュニケーションが常時、確実に成立するとは限らない。しかし、人間が社会的存在として生存していくためにはコミュニケーションは必須であり、それだから、人間には、そのような場合、何らかの言語行動及び非言語行動によってメッセージを伝達するという「方略的能力」が要求されるのである。

非言語行動によって最も直接的にメッセージを伝達するものは「知覚」であろう。「コミュニケーションにおける認識活動は、統合的な意味形成を目指しているため、両者は、互いの行動によって発生した刺激の意味的特性を、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚を通してつかもうとする。つまり人間も他の動物と同様に、五感を用いてコミュニケーションしている」（ibid）のである。また、われわれは、この「知覚」以外にも、一般的な行動、ジェスチャー、顔の表情、視線、身体の接触、沈黙、時間と空間の使い方など、各種の「言語手段によらない行動」によってメッセージを伝達している。

非言語コミュニケーション研究の大家バードウィステルも、またロボなどの学者も、コミュニケーションのおよそ65～70%が非言語的なものであると言っているが、これが外国語による場合、このパーセンテージはさらに高くなることが容易に推測される。

以上、非言語コミュニケーション、そのうち最も基本的なものと考えられる「知覚によるメッセージの伝達」と「その他の言語手段によらない行動によるメッセージの伝達」の重要性について見てきた。筆者が、この調査・研究において、中学校、高等学校の「国際理解教育」、つまり「コミュニケーション能力としての異文化理解の教育」の第3の「指導事項」としてこの「知覚、行動の非言語コミュニケーション」を取り上げる所以である。

## V. 中学校英語教科書における指導事項

上記IVにおいて「国際理解教育」の指導事項を見た。第1の指導事項は「知識としての異文化理解」であり、第2は「概念・機能の言語コミュニケーション」、第3は「知覚・行動の非言語コミュニケーション」であった。この章では、これらの指導事項が中学校の英語教科書 NEW HORIZON English Course 1～3（東書）にどのようなものとして、どの程度まで組み込まれているかを見る。ただしこれらについて LESSON 本文を詳細に分析することは不可能に近いので、教科書の編集者がまとめたものを中心に書き出すことにする。

## 1. NEW HORIZON English Course 1 における指導事項

### (1) 知識としての異文化理解

#### ◎ ENGLISH AROUND THE WORLD

- ・英語を母国語とする人が多い国 (picture)
- ・英語を公用語・準公用語とする国 (picture)
- ・国際連合で使われる公用語
- ・世界の主な言語 (graph)

#### ◎ AMERICA

- ・坂と海の街サンフランシスコ (photo)
- ・大自然の驚異グランドキャニオン (photo)
- ・ハロウィーンのカボチャちょうちん (photo)
- ・感謝祭のシチメンチョウ (Photo)

#### ◎ CANADA

- ・美しい山と森と湖のバンフ国立公園 (photo)

#### ◎ SINGAPORE

- ・現代的な高層ビルと緑の公園 (photo)

#### ◎ SCHOOL LIFE

- ・教室での語らい (photo)
- ・スクールバスで学校へ (photo)
- ・楽しい放課後 (photo)

#### ◎ Welcome to English

- ・朝ごはんを食べて (picture)
- ・忘れ物はないかな? (picture)
- ・好きな教科は? (picture)
- ・放課後の楽しみは? (picture)
- ・世界の友達が日本へ (photo)
- ・あなたの電話番号は? (photo)

#### ◎ THE ABC SONG

#### ◎ アメリカの学校制度

#### ◎ Sunday, Monday, Tuesday (song)

#### ◎ 英語になった日本語… sushi, …

#### ◎ 折り紙の仕方

#### ◎ SIMON SAYS のゲーム

#### ◎ 日付変更線

#### ◎ デーヴィス家の人々の日曜日



◎テレビ番組 Sesame Street

◎シンガポールの国と人々

◎手紙の書き方

◎イソップ物語…よくばりライオン

◎ The Coo Coo Song

◎ Silent Night (song)

◎ハンバーガーショップにて (photo)

◎ PEOPLE AROUND THE WORLD …モスクワの通り (ロシア連邦)、街の中で (カナダ)、音楽を楽しむ人々 (中国)、3人仲よく (メキシコ)、ニューヨークの露店で (アメリカ)、女学生たち (スリランカ)、将棋大会 (韓国)、食事をする人 (エチオピア) (photo)

## (2) 概念・機能の言語コミュニケーション

◎こういうときにはこう言おう 1

- ・自己紹介をするとき… My name is Pentaro. My name is Ginko.
- ・人を紹介するとき… Mimi, this is Pentaro. Pentaro, this is Mimi.
- ・出会ったとき… Hi, Pentaro. Hi, Ginko.
- ・別れるとき… Good-bye. See you later.
- ・いろいろなあいさつ… Good morning, Pentaro. Good morning, Ginko.

◎こういうときにはこう言おう 2

- ・好ききらいをたずねるとき… Do you like tennis? Yes, I do.  
… [What's your favorite...?]
- ・数をたずねるとき… How many hamburgers do you have? I have twelve.

◎こういうときにはこう言おう 3

- ・時間をたずねるとき… What time is it? It's eleven.
- ・交通手段をたずねるとき… How do you go to school? By bus.
- ・お礼を言うとき… Thank you very much. You are welcome.

## (3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション…該当するものなし

## 2. NEW HORIZON English Course 2 における指導事項

### (1) 知識としての異文化理解

◎白夜の北極海 (アラスカ) (photo)

◎ピカデリー・サーカスの地下鉄駅入口 (ロンドン) (photo)

◎セブ島 (フィリピン) (photo)

梅 染 信 夫

- ◎イシャク・パシャ宮殿遺跡（トルコ）(photo)
- ◎シルクロードの街、敦煌（中国）(photo)
- ◎ソウル市街（韓国）(photo)
- ◎工場の排煙による大気汚染 (photo)
- ◎宇宙飛行士 (photo)
- ◎ At a Party… アメリカの誕生日パーティー
- ◎ Paula's Summer Vacation… ポーラー家のロンドン旅行
- ◎イヌイットの民話 “Meta and the Bear”
- ◎地球人口の変化
- ◎頭文字を組み合わせた語… UNESCO
- ◎クロスワード・パズルの仕方
- ◎ Niagara Falls
- ◎「ボランティア」の意味
- ◎ Asia …アジアの国の人々の暮らし
- ◎ kanji, glasswork, old china の文化交流
- ◎外国へ行くために (photo)
- ◎ Japan Old and New (photo)
- ◎ Beautiful Sunday (song)
- ◎ White Christmas (song)
- ◎ Sing (song)

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション

◎こういうときにはこう言おう 1

- ・できるかどうかを述べる時… You can do it? No, I can't. Yes, you can.
- ・謝るとき… That's my racket. Oh, is it? I'm sorry. That's all right.
- ・ためらったり、言葉をつないだりするとき… What are you going to have? Well, let me see....
- ・驚きを表すとき… I play the drums. Really? That's great!

◎A Phone Call（電話での話し方）… Hello. Hello. This is Ken. Can I speak to Joe?  
Just a minute, please. Joe, there's a phone call for you....

◎ディスカッションの仕方… Today we're going to talk about the future... Ken, which group do you want to join? Well, I see a bright future, so I want to sit here..

◎こういうときにはこう言おう 2

- ・予定や計画を尋ねるとき… What are you going to do tomorrow evening? [What are your plans for...?] I'm going to go to the dance.

・したいことを尋ねるとき… What would you like to do? [What do you want to...?]  
I'd like to go fishing.

・必要があるかないかを述べるとき… Do I have to get up early tomorrow? No, you don't.

・道を尋ねるとき… Could you tell me the way to the XYZ store? Yes. Walk two blocks and turn right. You'll see the store on your left.

◎ことばの意味の取り違えの例… “put the lights out”, “dress the chicken”

◎ある日のある中学生のつぶやき… Oh, no. I overslept. No time to eat now....

◎こういうときにはこう言おう 3

・許可を求めるとき… May I sit here? Sure.

・理由を尋ねるとき… Why do you study so hard? Because I want to be a teacher.

・同情するとき… What happened to you yesterday? I was sick in bed. That's too bad.

### (3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

◎BODY LANGUAGE…Good! Bad! O. K. Come here. Me? Good luck! Attention!

Be quiet. It's true. I don't know. Listen carefully. Don't! (photo)

◎英詩鑑賞 “What Color Is Love?”…The sun is yellow.... What color is love?

## 3. NEW HORIZON English Course 3 における指導事項

### (1) 知識としての異文化理解

◎世界最大の一枚岩エアーズロック (photo)

◎ナスカの不思議な地上絵 (photo)

◎“We Are the World” を歌うために集まったアメリカの音楽家たち (photo)

◎チャリティコンサートに集まった若者 (photo)

◎桜の花 (Potomac 河畔) は親善大使

◎ At the Dinner Table… テーブルマナー

◎ Emi's Homestay in the United States …ホームステイの例

◎ A Puppet Show… 指人形の作り方と劇

◎ The History of Rock Music…Elvis Presley, the Beatles, “We Are the World”

◎ Opinions of Teenagers from Abroad…Brazil, the Netherlands, India, Switzerland から来たティーンエージャたちの声

◎外国の友達に、日本語・日本の気候・生活・人口・学校について紹介する

◎ International Week… 日本の着物・俳句、タイの踊り、アフリカの音楽と踊りの紹介

◎チャップリンの作った映画 Limelight

梅 染 信 夫

- ◎ The Earth in Danger…acid rain, greenhouse effect など地球は危機に直面している
- ◎ 名作鑑賞 “The Giving Tree”
- ◎ 数の言い方…電話番号、数式、少数・分数、年号
- ◎ You’ve Got a Friend (song)
- ◎ We Are the World (song)
- ◎ 「議長」は男だけ？
- ◎ What Can We Do to Save the Earth? (photo)

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション

- ◎ いろいろな言葉で「ありがとう」…スペイン、インド、イギリス、フランス、中国、韓国・北朝鮮、ドイツ、ロシア連邦各国で交わされる「ありがとう」
- ◎ こういうときにはこう言おう 1
  - ・ 頼むとき… Would you say something in Japanese? O.K. Minasan, konnichiwa.
  - ・ 断るとき… Would you like to play tennis with us? I’m sorry, but I can’t. I have a lot of work to do.
- ◎ テレビ番組のゲストが立ち去るとき… Thank you for joining us, Mr. Taylor. I’ve enjoyed it. Bye-bye.
- ◎ こういうときにはこう言おう 2
  - ・ 勧めるとき… How about this red one? Well, … May I try it on?
  - ・ 申し出るとき… Shall I draw a map for you? Yes, please.
  - ・ 誘うとき… Let’s go to the park. All right.
- ◎ こういうときにはこう言おう 3
  - ・ ほめるとき… You speak very good English. Thank you.
  - ・ 喜んで同意するとき… How about eating sukiyaki today? That’s a good idea.
  - ・ 忠告、助言、命令をするとき… You’d better stop. I see.
    - … You must go to bed now. O.K.
    - … I think you should stay longer.
- ◎ こういうときにはこう言おう 4
  - ・ どうしたかと尋ねるとき… What’s wrong? [What’s up? What happened?] Well, I didn’t study for the test at all.
  - ・ 確かめるとき… It’s the Statue of Liberty, isn’t it? Yes, that’s right.
  - ・ 義務を述べるとき… We should work together for a cleaner earth. We must do something.

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

◎英詩鑑賞 “Rainbow” …空に架かる虹の美しさ

Ⅵ. 高等学校英語教科書における指導事項

本章では高等学校教科書における「異文化理解」の指導事項を調べる。調査の対象となる教科書は NEW HORIZON English Course I, NEW HORIZON English Course II, Hello, there! — — Oral Communication A, NEW HORIZON English Reading, NEW HORIZON English Writing (東書) の5冊である。調査の範囲をこのように限定するのは、この採用の型が典型的な高等学校(普通科)におけるものであると考えられるからである。また調査方法としては、その性格上、LESSON 本文の内容を詳細に分析するのは不可能に近いので、IVで述べた「知識としての異文化理解」、「概念・機能の言語コミュニケーション」、「知覚・行動の非言語コミュニケーション」の三つの指導事項の観点から、調査する価値あると思われるものに限って書き出すことにする。

1. NEW HORIZON English Course I における指導事項

(1) 知識としての異文化理解

- ◎ Festivals and Celebrations Around the World…Brazil, Germany, Thailand, Spain, India, Great Britain, Belgium, Peru, Tanzania (photo)
- ◎ Dreams (Poem)
- ◎ An Australian Shopping Center (photo)
- ◎ An American High School (photo)
- ◎ Our Earth (photo)
- ◎ Christmas Around the World…Alaska, Tonga, Hawaii, Germany, Singapore, New Zealand (photo)
- ◎ Stand by Me (poem)
- ◎ 北半球と南半球
- ◎ 日本の正月
- ◎ 未来に対する考え方…肯定的／否定的／無関心／慎重
- ◎ Stretching Exercises
- ◎ Honesty (poem)
- ◎ 社会における女性の役割
- ◎ Asking for a Date
- ◎ The Story of Tea
- ◎ potato, sponge cake, tomato, golf の歴史
- ◎ “The World and You” — — Facts about the Environment

梅 染 信 夫

- ◎ Is There a Santa Claus?
- ◎ Greek myth "Daedalus and Icarus"
- ◎ Let it Be (poem)
- ◎ The Power of Advertising
- ◎ Leonard Bernstein, A Man of Many Talents
- ◎ Weekend Activities
- ◎ The Oak (poem)
- ◎ Words of Wisdom (proverb)

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション

- ◎ Expressing Feelings...I feel [am]..., I am anxious to do..., I am eager to do.... I am willing to do..., I would be happy to do....
- ◎ Cultural Notes 2
  - ・ あいまいな応答... What would you like to drink? Don't bother....
  - ・ 誤解を招く謙遜表現... You may not like this cake I made, but try a piece.
  - ・ 失礼にあたる質問や話題...年齢、結婚・未婚・家族状況など、金銭に関すること、身体的特徴、個人的なことがら、先入観に根ざした質問など、相手の知識や能力に関すること、その他：宗教、政治（支持政党）、思想・信条など
- ◎ Let's Try to Communicate
  - ・ 相手に話しかけるとき表現... Excuse me, but..., May I...?, Shall I...?

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

- ◎ Cultural Notes 1...That's a good idea..., It was terrible..., I'll keep my fingers crossed..., Me?... I swear my loyalty to my country..., It doesn't matter to me..., Calm down..., Yes, come over here. (photo)
- ◎ My First Japanese Meal...The way we eat differs from culture to culture. (Indonesia, India, Islamic countries, China, Japan)

2. NEW HORIZON English Course II における指導事項

(1) 知識としての異文化理解

- ◎ Canada (photo)
- ◎ Countries in Europe (photo)
- ◎ The Orange Tree (poem)
- ◎ Bridge Over Troubled Water (poem)
- ◎ A Little Seed... 異文化に対する姿勢

- ◎ The Growing Deserts… 地球はいま砂漠化の危機にさらされている
- ◎ Superstitions… イギリスの古い迷信が結婚を決断させた
- ◎ Imagine (poem)
- ◎ The Green Banana… 異文化に接触するとき発見する価値観・慣習の違い
- ◎ Car… 各部の名称 (AmE と BrE の違い)
- ◎ Visas for Six Thousand Lives… 政府の命令に背いてユダヤ人を救った日本人外交官
- ◎ Let's Listen… Canada の典型的な街の地図
- ◎ The Rose (poem)
- ◎ I Became Her Target… 学校で只一人の黒人少年を差別しなかったビン先生
- ◎ The Little Girl… イギリス人の父と娘の愛情
- ◎ Neither Out Far Nor In Deep (poem)

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション

- ◎ Hints for Smoother Communication 1
  - ・ほめ方…持ち物、服装・服飾品、髪型、技能・能力等をほめる
  - ・感謝の表現…贈物をもらったり、食事などをごちそうになったとき、親切を受けたとき、その他の一般的な謝意表現
- ◎ Let's Try to Communicate… I'm sure, I think, I hope, There is no doubt that, I believe などの表現
- ◎ Hints for Smoother Communication 2
  - ・お祝いの表現、激励・お見舞い・お悔やみの表現、お詫びの表現、断りの表現
- ◎ Let's Try It Out… That (This) is how....
- ◎ 文脈を利用しよう…場面・状況を手がかりとして語句の意味が推測できることがある
- ◎ 文法のまとめ
  - ・目的・状況に応じた表現例… Invitation, Refusal, Reluctance, Suggestion, Permission, Request, Asking Directions, Opinion
- ◎ Some Advice for You When You Are in Trouble… Finding Out a Telephone Number, Asking Directions, Getting Medical Help, Ordering at a Restaurant

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

- ◎ People and Colors… 色に対する感じ方や連想の仕方は文化によって異なる
- ◎ Let's Try to Communicate… 色に関する成句が表す意味
- ◎ Social Manners… Greeting Manners と Table Manners
- ◎ How to Read a Person Like a Book …しぐさや動作、顔の表情は心理状態を表す

### 3. Hello, there! --- Oral Communication A における指導事項

#### (1) 知識としての異文化理解

- ◎ BRIDGE OVER TROUBLED WATER (song)
- ◎ first name と last name, 親しさを表す first name
- ◎欧米で贈り物をするとき
- ◎相手の話の内容がわからないとき
- ◎アメリカ人の last name
- ◎弁当をサックランチと呼ぶわけ
- ◎コミュニケーションのエチケット…相手の目を見て話そう、黙っていないで反応しよう、相手に応じて丁寧な表現を使おう、コミュニケーションはことばのキャッチボール
- ◎ hobby と interest
- ◎アメリカでは映画ごとに入場者が指定されている
- ◎アメリカで最も人気のあるスポーツ
- ◎アメリカの休日は各州の権限で決められている
- ◎アメリカの店での支払い
- ◎ Mexican food --- tacos
- ◎ファーストフード・レストランの MENU
- ◎アメリカでのチップの習慣
- ◎テキサスの牛肉、アイダホのじゃがいも……
- ◎日本語の下町と英語の downtown
- ◎アメリカの街路
- ◎将来像の日米比較
- ◎日本のことを紹介しよう…初もうで、豆まき、こいのぼり、盆踊り、七五三、除夜の鐘

#### (2) 概念・機能の言語コミュニケーション

- ◎自分の気持ちを言ってみよう… Wow! Oh, no! Great! No kidding. How beautiful! Unbelievable! I'm nervous. I envy you. I'm disappointed. I feel blue. Cheer up. I'm mad. I'm scared. I love rock'n' roll. I can't stand natto.
- ◎自分を紹介する… My name is..., I'm Kumi Suzuki (sixteen years old, a senior high school student, in the tenth grade at Tozai Senior High).
- ◎人を紹介する… Let's introduce ourselves in English. These are my parents. This is Bob Grant from the United States. There are four people in my family : my father, my mother, my sister and I.
- ◎紹介に答える… Nice to meet you, (too). Glad to meet you, Mitsuo. How do you do, Mr. and Mrs. Tanaka?



- ◎あいさつ（出会ったとき）… Hello. Hi. How Are You? — [I'm] fine [O.K.], thank you (thanks). Very well, thank you. Pretty good, thank you. Not bad, thank you. Good morning (afternoon, evening). How's school going? — It's O.K. Happy birthday, Bob. How're you doing? May I help you? Can I help you?
- ◎あいさつ（別れるとき）… Well, I have to go now. Nice talking to you. See you later (tomorrow, on Monday, soon), Mitsuo. Good-bye, Jane. Bye. So long. Take care. Have a good time at Disneyland (a nice day).
- ◎注意を引く… Here's something for you. Here you are. Excuse me. Here it is.
- ◎あいづちをうつ… Oh, I see. Oh, really (yeah)? Is that right? Right.
- ◎考える時間をとる… Well, ... Let me see.
- ◎不明な点をきき返す，不明な点に答える… Oh, for me? (I beg your) Pardon? Sorry? Excuse me? What is it? What's your name again? What does Mitso mean? — It means "bright boy."
- ◎話題を変える… Well, ... By the way, how long are you going to stay here?
- ◎感謝を表す、感謝に答える… Oh, thank you very much, Keiko. — You're welcome. Oh, thanks a lot. Thanks for calling. Thank you for inviting me. Thanks for your suggestion.
- ◎謝罪する… Oh, I'm sorry.
- ◎好き嫌い… I like math a lot. My favorite subject is English. I like it very much. Do you like your new school, Jane? What class do you like best? — Calligraphy. Who's your favorite group? I prefer classical music. What do you like, then? Tom Cruise is my favorite actor. I love reading books. Banana Yoshimoto is one of my favorite authors. I prefer to see movies at movie theaters. What kind of sports do you like? I liked reading books about stars and rockets. I hate it. I can't stand it. I don't like movies.
- ◎興味・関心… What kind of music are you interested in? What are you interested in? Are you a movie fan, too? I'm very interested in music.
- ◎欲求・願望… I hope you like it. Who do you want to ask? I want to show him around. What color do you want? What kind of food would you like to have? — Well, I'd like to eat Mexican food.
- ◎意図・予定… By the way, how long are you going to stay here? I'll call him [her] later. What are you going to have? What are your future plans?
- ◎許可・義務… May I open it now? Can I try it on? I have to go now.
- ◎要求・依頼… Can you speak more slowly? May I ask you a question?
- ◎提案・勧誘… Do you want to play tennis with me after school? How about going to

梅 染 信 夫

the movies this Saturday afternoon? Why don't we meet at the box office at three?  
Would you like to come along? Yoko, shall we eat out this Saturday evening?

◎承諾・拒絶… Sure. Yes, of course. Fine. Oh, I'd love to. That's fine. Sounds good.  
Good. O.K. No, not now. I'd like to, but I can't ski. Sorry, I can't. No, I'd rather not.

◎意見・主張・感想… It's a nice name. They are terrific. I can't stand it. It's too boring. He's a good actor. He's O.K. Hmm, that sounds nice. What do you think of Japanese professional baseball? --I think some Japanese players are as good as American major leaguers. Oh, that's a very good idea. That'd be nice. (That) sounds good. I have no idea.

◎場所… May I ask where you are from? --I am from Canada. Where are you from? Where do you live? It's to the north of Tokyo. I live in Yokohama. It's southwest of Tokyo. Chiba is (to the) southeast of Tokyo. Kofu is about 100 kilometers west of Tokyo.

◎時間… Do you have the time? When does school start in America? What time does the movie start? How long does it take to get there from Tokyo? --It takes about thirty minutes by train. My uncle's place is five minutes from here on foot. How far is your home from school? --It's ten minutes by bus.

◎数・量・距離・頻度… How many brothers and sisters do you have? How many classes are you taking? The population is about 200,000. How much is it? My uncle's place is five minutes from here on foot. How far is your home from school? --It's ten minutes by bus. How often do you go fishing?

◎所属… Are you a student at this high school? Do you belong to any clubs? --I belong to the kendo club. What club do you belong to?

◎電話… Hello. May I speak to Keiko? Speaking. Mary speaking. Just a moment, please.

◎買い物… May I help you? I'm looking for a jacket. Can I try it on? I'll take it. How much is it? --The total is 65 dollars 72 cents. Cash or charge? Here's 70 dollars. Here's your change. Can I help you? Do you have any instant ramen? Here it is. Anything else? --No, that's all. Your change is sixty-eight yen.

◎食事 (レストランで) … May I take your order? --I'd like to have two beef tacos. With soup or salad? --Salad, please. Anything to drink? --Ice tea, please. Anything else? --No, that's all for me. Is that for here or to go? Large or small?

◎道案内… How do we get there? --By train from Tokyo Station. Can you tell me the way to Takeshita Dori Street? Go straight along this street until you come to a

big street. Then turn left. Keep going until you come to a big intersection and turn right. Cross the street and turn left. You can't miss it. Could you tell me the way to the United Nations? Walk five blocks down 42nd Street. Then turn left and you'll see the flags of various countries on your right.

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

- ◎自分の気持ちを言ってみよう… Wow! Oh, no! Great! No kidding. How beautiful! Unbelievable! I'm nervous. I envy you. I'm disappointed. I feel blue. Cheer up. I'm mad. I'm scared. I love rock'n' roll. I can't stand natto. と発話したときのゼスチャー (illustration)
- ◎欧米で贈り物をするとき
- ◎相手の話の内容がわからないとき
- ◎不用意にうなずかないように
- ◎初対面のときのあいさつ (握手・会釈など)
- ◎コミュニケーションのエチケット…相手の目を見て話そう

4. NEW HORIZON English Reading における指導事項

(1) 知識としての異文化理解

- ◎ Native Americans (photo)
- ◎ The U.S.A. — Various People Together (photo)
- ◎ Youth Culture (若者文化とは何か) (photo)
- ◎ The Kenyan Gift (アメリカの少女が異文化に目を開いていく)
- ◎ An Island of Peace (アメリカの少年が日米激戦地の硫黄島で見たもの)
- ◎ Papa, the Philosopher (イタリア系移民の子の中学時代における辛い体験)
- ◎ Data from the U.S. Census Bureau (Race for the U.S., 1990 and 1980)
- ◎ Splendor in the Grass (アメリカ青春映画の名作)
- ◎ Lovin' You (poem)
- ◎ The Sacred "Rac" (インド人学者が見たアメリカ大陸 Asu 族の習性)
- ◎ Word Play (Crossword Puzzle, Anagrams, Palindrome, Doublets)
- ◎ Kramer vs. Kramer (夫婦が別れるとき、どちらが子供を育てる資格を持つか)
- ◎ The American Justice System (法廷と出廷する人物、裁判の一般的な手順)
- ◎ The Little Riders (イギリスの少女がオランダの町の宝を死守する)
- ◎英語の差別的な言葉を追放する動き
- ◎ The Web of Life (ドワミッシュ族の長が、土地を買いいたいという白人に対して答える)
- ◎ Heal the World (poem)

梅 染 信 夫

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション

- ◎予定を表す be to be… I was to take a bus to the airport in Nairobi.
- ◎義務を表す be to be… What am I to do next?
- ◎可能を表す be to be… Not a star was to be seen in the sky.
- ◎運命を表す be to be… He was never to see his hometown.
- ◎結果を表す to do… If I live to be a hundred, I'll never be able to explain to her how it all happened.

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション

- ◎ Creative Dreams (夢の中ですぐれた創造がなされるのはなぜか)
- ◎ Do You See What I See? (すべての物が誰の目にも同じに見えるとは限らない)
- ◎ Hidden Persuaders (お客に買おうという気持ちにさせるもの)

5. NEW HORIZON English Writing における指導事項

(1) 知識としての異文化理解

- ◎「ハロー」と言わなければならないアメリカの高校の規則
- ◎アメリカの高校生のデート
- ◎“A rolling stone gathers no moss.”の英米の意味の違い
- ◎アメリカのティーンエイジャーは毎週21時間以上もテレビを見る。
- ◎外国人は個人的な質問を好まない
- ◎西洋では blow one's nose はかまわないが sneeze は気にする
- ◎英語の手紙の書き方
- ◎アメリカのテレビにはホームショッピングネットワーク局というのがある
- ◎アメリカでは Valentine's Day に男の子が女の子にプレゼントする
- ◎アメリカのテレビではたばこの commercial は禁止
- ◎アメリカではじゃんけんの代わりに coin を投げて決める
- ◎英語は今や国際語
- ◎ HOW MANY THAT'S? (nursery rhyme)

(2) 概念・機能の言語コミュニケーション…該当するものなし

(3) 知覚・行動の非言語コミュニケーション…該当するものなし

VII. 「国際理解教育」の指導と評価（結語）

以上、中学校英語教科書3冊と高等学校英語教科書5冊における「国際理解教育」の指導事

項を見てきたが、教科書に記載されていることと指導されていることとは必ずしも一致するとは限らない。いったい、これらの指導事項について生徒はどのように学習し、また、その学習の成果はどのように評価されているのであろうか。

青木（1985）は「これまで日本では、異文化教育の実践自体が乏しかったので、その評価はほとんど手つかずの状態だった」と述べているが、これが実態であるかも知れない。英語教育関係書の中には、このことの指導と評価について全く触れていないものさえ見受けられる。（筆者が知る指導例としては Damen（1987）があり、また評価に関しては Kramsch（1991）が参考になる。）

大学における英語科教育法のテキストとして、また、中学校・高等学校教員の標準的参考書として我が国において最も高い評価を受けているものの一つとみられる『改定版・新・英語科教育の研究』においても、わずかに、「異文化理解」の指導例と評価例が一例ずつ載っているに過ぎない。

そこにおいて藤田は、異文化理解教育の指導例として、アメリカの高校生活を題材にした教科書の記事を中心に、①知識・情報としての異文化学習（生徒が発問したり調査したりする）、②共感的理解のための異文化学習（生徒間で discussion したり debate したりする）、③情報交換による異文化学習（アメリカの高校生に手紙を書く、AET と話す）の3例を挙げている。

また田中は、前記「社会言語学的能力」にかかわるテストとして、①設定された場面に最適な表現を選ぶ、②どこで使われる表現であるかを判定する、③対話における応答の適切さを判定する、④表現の formality を判定する、⑤与えられた表現と同一の機能を持つ文を選ぶ、⑥表現の機能を判定する例を掲げ、また「方略的能力」にかかわるテストとして、①パラフレーズする、②情報の確認をする、③追加情報を要求する、④反復を求める、の例を掲げている。

改訂された指導要領の外国語の目標は「コミュニケーション能力の育成と国際理解の基礎を培う」ことであった。新指導要領には、このため、とりわけオーラルなコミュニケーションを重視する点が顕著である。これは、中学校の「聞くこと」と「話すこと」がそれぞれ独立した領域となったことや、高等学校の「オーラル・コミュニケーション A, B, C」が新設されたことなどに現れている。

ところで、この「オーラル・コミュニケーション」は、「英語Ⅰ」の他に少なくとも1科目を履修させるもので、Aは主に日常生活にかかわる基本的な表現を身につけさせるもの、Bは聞く力を養成する科目、Cは話す力を養うコミュニケーション活動であるが、現状ではAが過半数を占め、Bが半数弱、Cの履修は極く限られており、他に「英語Ⅱ」、Reading や Writing を履修することはあっても、オーラル・コミュニケーションを2ないし3科目履修するものはほとんどないと聞く。

このことは、一つには、未だに、大学、短大の入学試験の問題が言語的要素の試験が主流となっており、中学校、高等学校において育成されるべき「コミュニケーション能力」を総合的に調査する試験にはなっていない点が指摘されよう。またこの履修状況は、同時に、中学校、

高等学校における英語の学習指導の傾向を示すということもできるであろう。

しかし、さらに見逃してはならない点がある。それは、もう一つの「国際理解の基礎を培う」という目標の所在が明確でないということである。

石井は和田・小池(1990)において、「オーラル・コミュニケーション C」は国際社会に生きる日本人に不可欠な音声英語によるコミュニケーションの技能と態度の育成を旨としている。それには、英語の発音、文法、語彙という言語的要素に加えて、顔の表情やジェスチャーのような非言語コミュニケーション行動、相互理解を深めるためのコミュニケーションの原理、積極的な自己表現の態度などについて組織的な指導が必要となる」と言っているが、これは只単に「オーラル・コミュニケーション C」についてだけ言えることではないと思う。それは、中学校及び高等学校における「国際理解教育」、また、それをいわば発展させ、完結させるべき大学・短大レベルにおける「異文化間コミュニケーション教育」が、統合的に、かつ一貫性を持ったものとして研究されることが今日までないがしろにされてきたことに対する反省と、このことが、今日的な課題として、研究され、実践されることの重要性と必要性について述べているものであると思う。

筆者は、このことについて、今後、少なくとも次のような内容の組織的、系統的な教育研究が行われなければならないと思っている。

- ①「国際理解教育」及び「異文化間コミュニケーション教育」の定義と目標
- ②「国際理解教育」及び「異文化間コミュニケーション教育」の教育内容とシラバスの設定
- ③「国際理解教育」及び「異文化間コミュニケーション教育」の教育方法
- ④「国際理解教育」及び「異文化間コミュニケーション教育」の研究発表(大会、論文)

最後に、本研究は次記の教科書及び参考書に負うところが極めて大きい。末尾ながら記して謝意を表するものである。

#### 参 考 文 献

- 青木昭六。(1992)。「英語教育とコミュニケーション・コンピテンス」。阿部美哉(編)『国際文化学と英語教育』。玉川大学出版部。
- 青木昭六(編)。(1985)。『英語の評価論』。大修館書店。
- 浅野博他(監)。(1994)。NEW HORIZON English Course1。東京書籍。
- 浅野博他(監)。(1994)。NEW HORIZON English Course2。東京書籍。
- 浅野博他(監)。(1994)。NEW HORIZON English Course3。東京書籍。
- Brumfit, C. J. & Johnson, Communicative Approach to Language Teaching. Oxford University Press.
- Byram, M. & Esarte-Sarries, V. (1991). Investigating Cultural Studies in Foreign Language Teaching. Multilingual Matters.
- Canle, M. (1983). From Communicative Competence to Communicative Language Pedagogy, in Richards J. C. & Schidt, R. W. (eds.). Language and Communication. Longman.
- Canle, M. & Swain, M. (1980). Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing. Applied Linguistics 1. No.1.

- Damen, L. (1987). *Culture Learning: The Fifth Dimension in the Language Classroom*. Addison-Wesley.
- 藤田清正. (1994). 「異文化理解教育の指導例」. 片山嘉雄他 (編) 『改訂版・新・英語科教育の研究』. 大修館書店.
- 橋本光郎 (監). (1995). *NEW HORIZON English Writing*. 東京書籍.
- 長谷川典子. (1993). 「日本におけるコミュニケーションの研究と教育」. 橋本満弘他 (編) 『日本人のコミュニケーション』. 桐原書店.
- 橋本光郎 (監). (1995). *NEW HORIZON English Writing*. 東京書籍.
- 星野命. (1989). 「異文化間教育とコミュニケーション」. 『異文化間教育』 3. アカデミア出版会.
- Hymes, D. H. (1971). On communicative competence. in Pride, J. B. & Holmes, J. (eds.). *Sociolinguistics*. Penguin Education.
- 石井敏. (1987). 「異文化コミュニケーション教育」. 古田暁 (編) 『異文化コミュニケーション』. 有斐閣.
- 神田外語大学異文化コミュニケーション研究所. 「コミュニケーション教育に関する調査結果」. (長谷川典子. (1993) 所収)
- 小池生夫 (監). (1995). *NEW HORIZON English Course I*. 東京書籍.
- 小池生夫 (監). (1995). *NEW HORIZON English Course II*. 東京書籍.
- 小池生夫他 (監). (1995). *Hello, there! — Oral Communication A*. 東京書籍.
- 小池生夫 (監). (1995). *NEW HORIZON English Reading*. 東京書籍.
- Kramsch, C. (1991). *Culture Learning: A View from the United States*, in Bot, K. D. et. al. (eds.). *Foreign Language Research in Cross Cultural Perspective*. John Benjamins Pub. Co.
- 松畑熙一. (1994). 「英語教育とテスト」. 片山嘉雄他 (編) 『改訂版・新・英語科教育の研究』. 大修館書店.
- 文部省 (編). (1993). 教育白書『我が国の文教施策：文化発信社会に向けて』. 大蔵省印刷局.
- Munby, J. (1978). *Communicative Syllabus Design*. Cambridge University Press.
- 鍋倉健悦. (1987). 『人間行動としてのコミュニケーション』. 思索社.
- 日本ユネスコ国内委員会 (編). (1982). 『国際理解の手引』. 東京法令出版.
- Rich, A. L. & Ogawa, D. M. (1982). *Intercultural and Interracial Communication*. in Samovar, L. A. & Porter, R. E. (eds.). *Intercultural Communication*. (2nd ed.). Wadsworth, Inc.
- Samovar, L. A. & Porter, R. E. (1994). *Intercultural Communication*. (7th ed.). Wadsworth, Inc.
- Samovar, L. A, Porter, R. E, & Jain, N. C. (1981). *Understanding Intercultural Communication*. Wadsworth, Inc.
- Savignon, S. J. (1983). *Communicative Competence: Theory and Classroom Practice*. Addison-Wesley.
- 多田孝志. (1993). 「中学校の国際理解教育」. 石坂和夫他 『国際理解教育事典』. 創友社.
- 田中正道. (1994). 「コミュニケーション能力のテスト」. 片山嘉雄他 (編) 『改訂版・新・英語科教育の研究』. 大修館書店.
- 和田稔. (1994). 「学習指導要領と言語習得」. 小池生夫 (監) 『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』. 大修館書店.
- 和田稔・小池生夫. (1990). 『改訂・高等学校学習指導要領の展開』. 明治図書.
- 和田稔・羽鳥博愛. (1989). 『改訂・中学校学習指導要領の展開』. 明治図書.
- 若松孝慈. (1994). 「異文化理解への対応」. 片山嘉雄他 (編) 『改訂版・新・英語科教育の研究』. 大修館書店.
- Wilkins, D. A. (1972). *Linguistics in Language Teaching*. Edward Arnold.
- Wilkins, D. A. (1976). *Notional Syllabuses*. Oxford University Press.
- 米田伸次. (1993). 「高等学校の国際理解教育」. 石坂和夫他 『国際理解教育事典』. 創友社.